

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

上福島小	学校	児童数	60
------	----	-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.39	18.10	34.59	38.88	53.62	9.61	140.89	21.48	52.21
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.08	17.27	42.04	38.23	47.31	9.78	129.62	12.89	54.58
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

大阪市や全国平均を上回る種目では、本校平均が大きく上回るため結果として体力合計点は高くなっている。

「運動やスポーツをすることは好き」と肯定回答する割合は、男女ともに大阪市や全国の平均を大きく上回っている。また、「運動やスポーツを通じていろいろな人が集まって交流したり、つながりや一体感を感じたりする」ことがあるという肯定回答が大きく上回っているのが特徴である。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子3.6%、女子29.1%であった。

結果から体力要素の筋力や筋パワーを測定する種目である、握力、上体起こし、立ち幅跳びの結果が低くなっている。一方で、柔軟性の長座体前屈、敏捷性の反復横とび、筋持久力の20mシャトルラン、巧緻性・投球能力のソフトボール投げでは大阪市・全国平均を上回っている種目があることから、しなやかな体ではあるが筋力が伴っていないことも考えられ、これらの能力の向上が課題である。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

運動場が狭いため、運動場で遊ぶ時間が割り当てられている。そのため、休み時間に運動場で遊ぶ時にはのびのびと体を動かしている。そのような環境下で、かけ足や長なわ等の週間を設定し学校全体で体を動かす機会を設けるようにしてきた。また、体育の授業でも体を動かす時間を可能な限り長く設定できるように工夫を行ってきた。十分な運動量とは言いがたいかもしれないが、体を動かすことの楽しさを味わうことができていることが質問紙からうかがえる。

運動に関する週間の設定が3学期に多かったため、期間の見直しやほかの種目での設定、チャレンジカードを作成するなどの工夫を行い、児童個人の運動能力の向上を図るとともに、長なわのような集団で運動する楽しさを味わうことができる取り組みを行ってきたい。